

# 美味しく 色よく そろいよく 大栄愛娘を育てよう。

年内	耕盤破碎 前作の残渣処理 と地力保全	サブソイラー プラソイラー等 堆肥が入れない場合に限り、米ぬか300kgを表層に混和			★圃場の選定 排水性が良く、耕土の深さは40センチ以上が望ましい。 残存チツが多すぎないこと。 連作により、品質の低下が著しい畑での栽培は避ける。
4	土作り	完熟堆肥を施用する			★米ぬか施用(堆肥が入れない場合に限り) 前作の残渣(イモツル)を分解しておくことで、基肥施用直後の肥料吸収を速やかにする。発酵によって土をリフレッシュさせ、微生物層を富化させることにより、地力保全効果も期待できる。
5~6	ネマ防除	テロン ネマトリンエース粒剤 ネマキック粒剤 ビーラム粒剤	15~20%全面処理 10~30kg全面土壌混和 15~50kg全面土壌混和 20kg全面土壌混和	適宜使用	★ネコブセンチュウ防除 テロンは防除効果が高い11月中に処理する。 前作にネマックス等の対抗植物を作付けする。深層の線虫密度低減すると同時に窒素固定による地力増進効果も期待できる。  ★さつまいもに適した堆肥とは (例)落葉やモミガラなどを材料とし、米ぬか、油粕、骨粉等の有機質肥料を混ぜ合わせて切り返し、発酵を促進させたもの。 炭素率10%以下まで発酵が進んだものは、良質な基肥となる。
	ネマブセンチュウ及びコガネムシ類防除	ネマトリパワーD粒剤 ビーラムプラス粒剤	20~30kg全面土壌混和 20kg全面土壌混和	ネマトリパワーD粒剤はダントツ粒剤、ビーラムプラス粒剤はアドマイヤーイーモ粒剤との混合剤のためいずれかを使用する場合は上記を除いた殺虫剤を使用(1剤まで)	
	コガネムシ類防除	アクタラ粒剤5 フォース粒剤 ダントツ粒剤 アドマイヤーイーモ粒剤 プリンスベイト	6~9kg 9kg 6~9kg 8~12kg 6kg	いずれかを使用(2剤まで)	
	施肥	完熟堆肥□	大栄愛娘300(3-10-10)		★施肥 土壌診断を行い、適正な施肥を行いましょ。初中期はスムーズにツルが伸び、秋口から、次第に樹勢が落ち着いてくる生育を目指す。 リン酸資材は、完熟堆肥等の腐植質との同時施用が有効。最近、石灰 苦土、カリ等の塩基バランスが崩れている畑が見受けられるので、土壌診断結果に基づいた施肥を行ってください。 投入チツ量については、早く草勢が弱まる畑が増えてきていることから、前作の草勢を十分考慮し施肥量を決めてください。 基肥は、もっと安心農産物生産・販売運動の基準により、大栄愛娘300は120kgまで さつまいもは88kgまで さつまいも恵70kgまで さつまいもペレット520Nは53kgまで さつまいも名人は60kgまで
		さつまいも郷(5-10-8)	さつまいも恵(3-15-5)	さつまいもペレット520N(5-12-10)	
		さつまいも名人(5-10-10)	オールアッシュPK455(0-14-15)	リンスター30号	
		苦土過石	苦土重焼燐35%	過燐酸石灰	
		けい酸加里	硫加 塩加	畑のカルシウム	
		セルカ	硫マグ	マルチサポート	
		キーゼライト	ミネラル宝素	アヅミン	
		骨粉			
	土壌消毒	ドクロロール		1穴あたり2~3ml	★植付 ドクロロール処理後10日以上経過し、ガス拡散と地温確保が十分できてから植付を行ってください。 ★植え付け終了後は、即時圃場プレートを立てましょ。
	採苗 苗消毒 植付け	ベンレート水和剤	500~1000倍	20~30分苗基部浸漬	
	除草	デュアルゴールド70~130ml 挿苗後 収穫90日前まで レンザー 100~150g 植付後 但し収穫30日前まで トレファノサイド乳剤 200~300ml 挿苗後 収穫60日前まで ロックス 100~200g 生育期 収穫45日前まで プリグロックスL 600~1000ml 但し収穫30日前まで バスタ液剤 200~500ml 畦間処理 但し収穫14日前まで ザクサ液剤 300~500ml 畦間処理 収穫30日前まで		3剤を選択して使用	★そろいの良いM級主体のイモを作る。 着イモ数が少なく、過肥大する傾向が見られる。 太い苗で5節の水平植えをすると着イモ数を増やすことができる。めーでるしーとを利用すると、より効果的。 めーでるしーとを使う際は、透明マルチとの組み合わせがよい。 乾燥による活着不良になると思われる場合植付け直後に灌水するとよい。
7	灌水				★灌水 好天が続く梅雨明け以降に灌水を行うと、肥料分が早く吸収されて、後半のツルのあがり良くなる。また、この時期に強い日射と乾燥でおれが起ると周皮乾腐症が発生する傾向がある。これを防ぐためにも灌水は有効。
	斑点病防除	Zボルドー500倍/ベンレート水和剤1000倍のいずれかを散布			
8	ヨトウムシ類防除	トルネードエースDF マッチ乳剤 フェニックス顆粒水和剤 プレバゾンフロアブル5	2000倍(7日前まで) 2000~3000倍(14日前まで) 2000~6000倍(前日まで) 2000~4000倍(前日まで)	2剤を選択し 各1回づつ使用	
	コナジラミ類防除 (発生状況に応じて)	スタークル顆粒水溶剤 コテツフロアブル	2000倍(3日まで) 2000倍(前日まで)	コルト顆粒水和剤 4000倍(前日まで)	
9	収穫貯蔵		発生予察情報に基づき、防除を行いましょ。		★斑点病の防除 近年、草勢が弱い畑を中心に、斑点病の発生が増加している。発生が疑われる畑では、7月中にZボルドーを散布する。
10			過肥大する前に収穫する。 食味向上のためにも、十分なデンプン蓄積を確認してから掘り取る。(天候、植付時期等に合わせて) 降霜前に終了すること。		
10~6	出荷		貯蔵は、貯蔵庫、ハウス地下貯蔵庫、深穴を利用。		★貯蔵 ・加工需要に対応出来る収穫を心かける。 ・早く植付したイモから順次取り出せるように入庫する。 ・高温多湿条件で色ボケが出やすいので注意する。 ・入庫する前にイモの温度を十分にさます。 ・入庫後温度が安定するまでは、換気・温度管理を入念に行う。
			貯蔵熟成期間45日を経過し、食味検査合格後、出荷を開始する。 栽培時期の早いものから出荷を行ってゆく。(年内出荷は5月中旬以前植え、4月以降の出荷は6月植えを基本とする)		